

# ACPを学ぼう

～それぞれの願いに寄り添い、最期まで人生を支える医療・ケアを実現するために

## 開催概要

開催日時：平成31年3月10日（日）10時～12時

場所：新潟県立看護大学 ホール

主催：上越地域人生の最終段階における医療・ケア協議会

参加者数：74名

### プログラム

1 開会あいさつ 上越総合病院 院長 籠島充 氏

情報提供 厚生労働省作成「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」

2 講演

座長 上越総合病院 院長 籠島充 氏

テーマ 人生会議をしよう“最期まで自分らしく生きる”を支えるために

講師 オレンジホームケアクリニック 理事長 紅谷浩之 氏

3 意見交換

参加者間で自施設でのACPの取り組みについて意見交換

4 閉会あいさつ 上越地域振興局健康福祉環境部 部長 森橋真一

### 開催内容

情報提供 上越総合病院 院長 籠島充 氏

「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン及び人生の最終段階における医療に関する意識調査」から

- ・ACPを進めることは賛成意見が過半数であるが、医療・介護の現場ではあまり行われていない。
- ・ガイドラインでは、人生の最終段階の医療・ケアは本人の意思決定を基本とし、本人の意思は変化しうるものであることから話し合いは繰り返し行われることが重要である。



講演 オレンジホームケアクリニック 理事長 紅谷浩之 氏

テーマ 人生会議をしよう“最期まで自分らしく生きる”を支えるために

- ・ACPとは、将来の意思決定能力の低下に備えて、患者の意向を叶えるために話し合うプロセス。たとえ決まらなくてもかまわない。話し合うことが大事。
- ・胃ろうや延命処置の選択などの具体的な処置を決める事前指示書の形ではなく、共有する時間や雰囲気を含め、話し合いを継続する過程全体のこと。



- ・一人でエンディングノート書かないで、話しの流れを共有することでどう考えているか深く理解でき、複雑な状況に対応可能になる。
- ・認知症や子どもなど自分で判断することが難しいと思われがちなのことも本人を囲んで話す方向性がみえてくる。

## 意見交換

1 自施設において取り組めるとよいと思うことはありますか。  
あるいは、実際に取り組んでいることはありますか。

- ・本人の意思は元気な時から確認したい。
- ・独居など、家族関係が従来と変わってきている。日ごろから関係が築けるとよい。
- ・患者を知るために生活者の視点で見ていく。
- ・退院、在宅支援において、カンファレンスの時に家族も交え、病院だけではわからない生活状況を共有していくことから取り組んでいきたい。



2 自施設においてACPを実践していく上で、難しい、あるいは課題と思うことはありますか。



- ・具合が悪くなってから最終段階の話題は出るが、本人で決定できる場合は少なく、家族の意見が優先されることがある。
- ・支援者側の意識改革が必要
- ・ACPについて、地域での認知度を上げる。
- ・家族間で話しあったが、迷いが残るので、人生会議とずっと続けていくことが大切。家族の心構えを共有、後押しする。

## アンケート結果(主な意見)

問:あなたの勤務先でACPについて取り組んでいますか。  
(回答結果は、右のグラフのとおり)

問:今日の研修会の内容を今後活用できると思いますか。

活用できると回答した理由

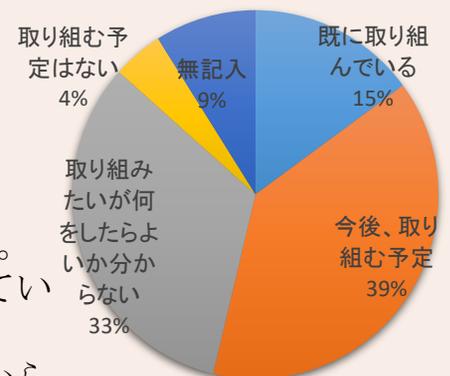
- ・地域での活動の中でACP、人生会議の情報発信ができる。
- ・主治医と家族の面談の際に、患者さんの希望を確認していくよう働きかけたい。
- ・病院で得られない情報を在宅に関わっているスタッフから提供してもらえようようにしたい。

活用するのは難しいと回答した理由

- ・ACPについて話し合う風土をつくっていくことが必要
- ・人生会議について大勢の人へのPRが必要

問:人生の最終段階における医療・ケアの推進について、今後、上越地域で必要だと思ふものがありましたら記入してください。

- ・多職種と話し合う機会、多職種との連携、上越地域でのACPの実践ケースの共有
- ・医師を対象とした講演会・研修会
- ・市民向けの講演会・公開講座
- ・地域で話し合える環境づくり
- ・話し合うきっかけとなるような意識づくりを地域全体で整備できるよよいと思う。



勤務先でのACPの取組状況

平成31年度取組予定

医療・ケアスタッフの研修

市民に向けてのACP「人生会議」の啓発